

文献には、信頼性に乏しいものがあります。すべてが史実とは限りません。随時追加修正中 文責 石田明夫

西 暦	年号	月日	内 容	文 献	領主	支配
1185	文治元年		平家滅亡。諸国に、守護・地頭を設置		日本	
1189.0717	文治5年	7月17日	奥州征伐の沙汰が下る。東海道が頼朝、浜は千葉常胤、北陸道は比企能員が進む。	吾妻鏡	義連	
1189.0719	文治5年	7月19日	四人城四郎長茂、佐原十郎義連が奥州征伐に加わる。	吾妻鏡	義連	
1189	文治5年		佐原義連、会津を賜り、幕内にあり。	旧事雑考	義連	
1189	文治5年		義連公入国。直ちに猪苗代城、浜崎城、小田山城を築城。子息3人の居館を定め、自らは、小田山城にあり、胡桃平は、佐原城跡と称す。3町3反あり。	葦名氏覚書	義連	
1189	文治5年		会津若松市神指町の幕内邑は、昔は中荒井邑の東にあり、洪水で寛永中に今の地に移る。昔、郡主が城を築きね幕内と名付ける。後、飯寺の北の旧壘（飯寺城跡）には、仁科太郎光盛がいる。幕内には新城寺を建ててが、その地は大川の中にあった。	会津鑑	義連	
1189	文治5年		会津若松市門田町の飯寺村壘、仁科太郎光盛築いて住す。これ、荒井氏の祖、後に小沼帯刀がいる。	会津古壘記	義連	
1189	文治5年		喜多方市熱塩加納町の半在家村館、官司ここに住し寺と半々をもって村名とする。文治5年に武士領となる。義連入国、官司藤原友則上京してその跡へ移る。建久元年(1190)山岩尾に館を築く。佐原館と号し1年住す。	会津古壘記	義連	
1189	文治5年		喜多方市熱塩加納町の山岩尾村館、佐原十郎義連築く。建久2年小田山に退去する。	会津古壘記	義連	
1189	文治5年		嶋山城(南会津町田島)長沼五郎左衛門尉正宗築いて住す。城は愛宕山の麓にして、東南は愛宕山、高さ20丈ばかりとなるべし。城中に清水多く湧出する。これ不動清水と号す。当国第一の要害なり。	会津古壘記	義連	
1189	文治5年		古町柳川城(南会津町古町)、河原田近江守盛光築き久川城と名づく。建保3年(1215)柳川城に改める。	会津古壘記	義連	
1189	文治5年		中丸城(金山町横田)鷹巢山の頂にあり。山ノ内下森守李基築いて中丸城と号す。麓より16町高し。西に大城戸門あり。	会津古壘記	義連	
1190			この頃、大戸窯中世陶器窯が、須恵器系で操業を再開し、14世紀前半まで36基窯が築かれる。	発掘調査	義連	
1190	文治年中		藤田村柵、藤田式部忠重これを築いて住す。村名も家名をもって名にす。佐藤秀衡の婿、伊達より逃げ来る。	会津古壘記	義連	
1190			この頃、大塚山経塚の須恵器系中世陶器が造られる。	発掘調査	義連	
1190	建久元年		宝積寺は、この年、佐原光盛が仮に住んだ場所。義連から5代までは、鎌倉に居て、会津を領していた。	会津鑑	義連	
1190	建久元年		義連、入国し先の官司、藤原友則が山岩尾に館を築き佐原館と称する。	会津鑑	義連	
1190	建久元年		小田館(会津若松市花見ヶ丘)、佐原十郎義連の孫光盛住す。住まい跡、宝積寺。	会津古壘記	義連	
1191	建久2年		「猪苗代町、八手山城」。猪苗代八手山城、義連の孫、大炊介経連築き住す。亀ヶ城と称す。また、白津に柵を築くる城代、区部弥太郎居る。	会津古壘記	義連	
1192	建久3年		藤倉館(会津若松市河東町)。藤倉壘、佐原三郎盛義築く。藤倉氏の祖なり。	会津古壘記	義連	
1193	建久4年	4月	新宮城(喜多方市新宮)。応徳2年(1085)新宮村と改める。吉田光房20代吉田重範他に移り、その跡へ三浦盛連来たりて館を造営して古城跡を直し、新宮城と改め、新宮を家苗二ス。4月入城。	会津古壘記	義連	
1195.02	建久6年	2月	喜多方市上三宮、上三宮熊野神社へ金剛力士像が奉納される。	新編風土記	義連	
1197	建久8年		猪苗代八手山城西館、長尾遠江守忠房築く。その子、隼人、内城に移り、国房其の子相模守其の子、三浦太郎盛親、中川を領して移る。其の跡、へ渡部兵部蔵移る。	会津古壘記	義連	
1199	建久年中		開津館(会津坂下町開津)上萱津村柵、建久年中に佐原氏の家臣、平井又五郎頼秀築く。これより16代萱津大炊介頼任、天正17年6月5日入倉で討死。	会津古壘記	義連	
1199	建久年中		建久年間(1190-99)に、会津坂下町塔寺の観音堂(国重文)が建てられる。	寺伝	義連	
1199	正治元年		石伏村柵、斎藤石見築く。永禄の頃小国監物居る。	会津古壘記	義連	
1200			この頃、大戸窯上雨屋64号窯が操業する。	発掘調査	義連	
1201.0203	建仁元年	2月3日	越後の住人城四郎長茂が反乱する。	吾妻鏡	義連	
1201.0222	建仁元年	2月22日	城四郎長茂、伴類新津四郎ら捕まり、25日に斬首される。	吾妻鏡	義連	

1201.0313	建仁元年	3月13日	城四郎の残党が、越後、佐渡で反乱を起こすが、佐々木三郎盛綱らが派遣され鎮圧する。	吾妻鏡	義連
1207.0624	承元元年	6月24日	佐原義連の死後、和泉、紀伊国の守護職が停止され、義連の代が引き上げを命じられる。	吾妻鏡	義連
1210			この頃、大戸窯上雨屋6号窯が操業する。	発掘調査	葦名
1210	承元4年		黒川(会津若松市)に如法寺が建てられる。	異本長帳	葦名
1221.01	承久3年	1月	磐梯町、恵日寺の薬師如来へ障子一本が奉納される。	新編風土記	葦名
1222.04	承久4年	4月	富田満祐、小田山城主佐原光盛、叶荘葦名五郎左衛門尉盛時(光盛弟)兄弟が、恵日寺に遊覧した時、仕官の誘いを受ける。	富田家年譜	葦名
1222.0505	貞応元年	5月5日	初代富田範祐、初めて城へ登る。佐原光盛、葦名盛時、平田益範と会い、益範より範の字をもらい、耶麻郡中村七在家50町4反をもらう。	富田家年譜	葦名
1227	嘉禄3年		道元、曹洞宗を開く。		日本
1227.07	嘉禄3年	7月5日	隆寛律師、会津に左遷され、葦名盛時の耶麻郡三宮願成寺預かりとなり、先に飯山より実成坊が入る。	富田家年譜	葦名
1227.0705	安貞元年	7月5日	専修念仏の隆寛が奥州へ配流されるが、配所へは弟子の実成が入った。隆寛は12月13日に死去し。実成は、その遺骨を上三宮に移し、願成寺を建てる。阿弥陀三尊は国指定重文。	高祖遺文録 国重文	葦名
1230			この頃、会津若松市湊町の赤井遺跡で集落が営まれる。	発掘調査	葦名
1230			この頃、会津若松市門田町の一ノ堰A遺跡で集落が営まれる。	発掘調査	葦名
1235	嘉禎元年		葦名泰盛が門田荘出生まれる。	富田家年譜	葦名
1240			この頃、屋敷遺跡で集落が営まれる。	発掘調査	葦名
1240.0219	延応2年	2月19日	会津美里町藤田の大光寺1号板碑が造られる。(県指定)	銘文	葦名
1243.0717	寛元元年	7月17日	将軍の供奉人を結番制にし、上旬に佐原五郎左衛門尉(盛連の子、盛時)、下旬に佐原肥前々司(盛連の弟、家連)、佐原六郎左衛門尉(時連の弟、時連か)となる。	吾妻鏡	盛連
1246	寛元4年		富田範祐、春に登営し、光盛より掃部介を賜る。	富田家年譜	光盛
1247.0621	宝治元年	6月21日	三浦泰村の乱(宝治合戦)があり、佐原一族の泰村、信連、光連、政連、光兼、頼連、泰連が討ち死、秀連は奥州で捕らえられ討ち死にする。佐原光盛は幕府方につき、佐原家の家名を残す。	吾妻鏡	光盛
1248	宝治2年		叶荘、葦名盛時が三浦介に任じられる。	富田家年譜	光盛
1249.0810	建長元年	8月10日	鎌倉幕府は、三浦惣領となった盛時に対し、相模国の領地を兄弟(佐原)光盛へ、父盛連の跡を継ぐように定める。	宇都宮文書	光盛
1250.0116	建長2年	1月16日	将軍の鶴岡八幡神社参拝に、供奉人として(佐原)遠江次郎左衛門尉光盛、(佐原)同六郎左衛門尉時連がつとめる。	吾妻鏡	光盛
1250.0226	建長2年	2月26日	将軍頼朝の文武稽古の弓と乗馬の練習のため、(佐原)遠江次郎左衛門尉、三浦介(盛時)を随行する。	吾妻鏡	光盛
1253	建長5年		鎌倉に建長寺が建てられる。日蓮が日蓮宗を開く。		日本
1253.1021	建長5年	10月21日	近衛家庄園目録が成る。踏河庄が関白藤原忠実から冷泉家三条天皇依子内親王を経て、近衛家領となる。	近衛家目録	光盛
1256.1123	康元元年	11月23日	執権時頼が出家し、(佐原)遠江守光盛、三浦介盛時も出家する。	吾妻鏡	光盛
1256.10	康元元年	11月23日	泰盛、盛時、時連、とともに富田範祐会津を出発する。	富田家年譜	光盛
1257.10	正嘉元年	10月	鎌倉大滋寺で供養があり、将軍の先陣隨兵として佐原泰盛が供する。	富田家年譜	泰盛
1261	弘長元年		富田範祐、13歳で泰盛に拝謁し茶菓子を賜る。	富田家年譜	泰盛
1263.1116	弘長3年	11月16日	会津若松市、東山羽黒神社御正体、聖観音が奉納される。	新編風土記	葦名
1264	文永元年		空行上人、喜多方田付の光徳寺に入る。	富田家年譜	葦名
1264	文永元年		葦名盛宗、門田荘で生まれる。	富田家年譜	葦名
1265	文永2年		会津若松市、藤倉村の難波寺が焼失、別に延命寺が建てられる。	異本長帳	葦名
1271.0811	文永8年	8月11日	猪苗代町、安穩寺の阿弥陀像造が奉納される。	仏像銘文	葦名
1274.0808	文永11年	8月8日	会津美里町、中田の弘安寺十一面観音が鑄造される。国重文	仏像銘文	葦名
1274	文永11年		文永の役、元軍が博多に来襲する。		日本
1275.02	建治元年	2月	磐梯山恵日寺座主、慶有が田植歌を写す。	恵日寺文書	葦名
1276.02	建治2年	2月	会津美里町、高田の法幢寺阿弥陀像が造られる。	仏像銘文	葦名
1277	建治3年		一遍上人が黒川に東明寺を建てる。	旧事雑考	葦名
1277.0408	建治3年	4月8日	一遍上人が城の側に、東明寺を建てる。	富田家年譜	葦名
1279.0401	弘安2年	4月1日	喜多方市、勝観音堂の不動明王像が造られる。県指定	仏像銘文	葦名

1281	弘安4年		弘安の役、元軍が博多に上陸する。		日本
1286	弘安9年		弘安の役の恩賞を停止する。		日本
1287	弘安10年		黒川に興徳寺が建てられる。	新編風土記	葦名
1287	弘安10年		大円和尚が瑞雲山興徳寺を建てる。奉行舟木藤左衛門、吉見治部少。	富田家年譜	盛宗
1287.0827	弘安10年	8月28日	会津美里町、仁王の道標板碑が造られる。	銘文	盛宗
1287.02	弘安10年	2月	富田基祐、初めて登營し、盛宗に拝謁し、双鶴亭で泰盛より盃を賜る。	富田家年譜	盛宗
1288	正応元年		会津若松市、湊町の石動木1号板碑が造られる。	銘文	盛宗
1289.1014	正応2年	10月14日	会津若松市、湊町東田面の板碑が造られる。	銘文	盛宗
1290.03	正応3年	3月	会津若松市、湊町の石動木2号・3号板碑が造られる。	銘文	盛宗
1290	正応3年		会津若松市、湊町の東田面の板碑が造られる。	銘文	盛宗
1290			この頃、大戸窯南原49号窯が操業する	発掘調査	盛宗
1291.08	正応4年	8月	会津若松市、湊町の館山1号、2号板碑が造られる。	銘文	盛宗
1291	正応4年		会津若松市、湊町石動木の板碑が造られる。	銘文	盛宗
1292	正応5年		富田祐義、父と太守泰盛とともに鷹狩をする。	富田家年譜	葦名
1293.10	正応6年	10月	会津若松市、金剛寺の金銅双竜双鳥文馨が造られる。国重文	銘文	葦名
1293	正応中		正応中(1288~93)、幕府から会津内上荒田村の在家を、門司親胤が拝領する。	門司氏文書	葦名
1293.04	永仁元年	4月	盛宗が入部する。	富田家年譜	盛宗
1294.03	永仁2年	3月	磐梯町、恵日寺の26世善源が勧進祝詞に奥書する。	新編風土記	葦名
1294.0802	永仁2年	8月2日	会津若松市、信州下諏訪社の大祝、小野、佐久、笠原氏が神輿を奉じ、盛宗に仕え遷宮する。	鉄製注連銘	盛宗
1295.02	永仁3年	2月11日	猪苗代町、閏2月11日、猪苗代盛経の母が峯明神へ宝器を奉納する。	富田家年譜	葦名
1295.02	永仁3年	2月11日	猪苗代町、閏2月11日、藤原氏女が岩崎明神へ宝器を奉納する。	新編風土記	葦名
1297	永仁5年		喜多方市豊川町太田の板碑が造られる。	銘文	葦名
1301	正安3年		熱塩加納示現寺の板碑が造られる。	銘文	葦名
1303.08	嘉元元年	8月	日尊が黒川に実成寺を建てる。	旧事雑考	葦名
1304	嘉元2年		会津若松市湊町の坂本1号板碑が造られる。	銘文	葦名
1304.08	嘉元2年	8月	日尊が久遠山実成寺を建てることを許される。	富田家年譜	盛宗
1305	嘉元3年		猪苗代町島田の板碑が造られる。	銘文	葦名
1306.0807	嘉元4年	8月7日	葦名光盛、子の次郎左衛門(経光)と子の宮鶴丸がとがめを受け諸国を流浪していたので、弟泰盛が所領を奪おうとするが、幕府は許さず、次郎左衛門に所領を安堵する。	新編風土記	葦名
1306.0926	徳治元年	9月26日	興徳寺の大円和尚が亡くなる。	富田家年譜	泰盛
1308	徳治3年		会津若松市湊町の石動木4号板碑が造られる。	銘文	葦名
1308	徳治3年		会津若松市湊町の坂本2号板碑が造られる。	銘文	葦名
1310	延慶3年		喜多方市関柴中善寺の薬師が草創される。	富田家年譜	葦名
1312	応長2年		会津若松市河東町代田の板碑が造られる。	銘文	葦名
1312.1013	正和元年	10月13日	日尊、黒川に実成寺を建てる。	旧事雑考	葦名
1313	正和2年		猪苗代町釜井の双式板碑が造られる。	銘文	葦名
1314	正和3年		この年、石塚氏が妙法寺を開き建てる。母は葦名清玉姫、石塚氏の居城は大塚山。	富田家年譜	葦名
1318	文保2年		冬、盛高が門田荘で生まれる。	富田家年譜	葦名
1321	元享元年		この年、綾金に観音堂と20余ヶ寺を盛宗が建てる。	富田家年譜	盛宗
1321.01	元享元年		富田宗祐、太守盛員と盛宗に拝謁し、宗の字を賜る。	富田家年譜	盛宗
1324	正中元年		太守盛宗の命を受け、富田祐義が鎌倉へ行く。	富田家年譜	盛宗
1327.09	嘉暦2年	9月	太守盛宗が下荒井の地を富田祐義に与え、居館を修築する。	富田家年譜	盛宗
1328	元徳2年		大光禪師が、黒川に実相寺を建てる。	旧事雑考	葦名
1329	元徳3年		館岩森戸の板碑が造られる。	銘文	葦名
1331	元弘元年		猪苗代町川桁観音寺の板碑造られる。現在無し。	新編風土記	葦名
1332.0109	正慶元年	1月9日	城内より出火。渡部源太、横山舎人、廓側で防火し、殿中までの飛び火を防ぐ。	富田家年譜	葦名
1333	正慶2年		高郷萩野の高山寺板碑が造られる。	銘文	葦名
1333	元弘3年		鎌倉幕府の滅亡。足利尊氏が六波羅探題を攻め、新田義貞が鎌倉を攻める。		日本

1333.0719	元弘3年	7月19日	後醍醐天皇によって、北条氏打倒に功績を上げた新田一族の岩松経家に伊勢国笠間庄や遠江国洪俣郷、出羽国会津などの地頭職を与えられる。	由良文書	署名
1333.0820	元弘3年	8月20日	建武政権の陸奥守に補任された北畠顕家より、門司親胤が正応中(1288~93)から拝領していた会津内の上荒田村の在家を再び安堵される。	門司氏文書	署名
1333.09	元弘3年	9月	長沼宗実が陸奥国長江庄奈良原郷と長田村、大豆渡村、美濃国石太郷、淡路国賀茂郷の地安堵を願う。	長沼文書	署名
1333.10	正慶2年	10月	葦名直盛が鎌倉で生まれる。友千代という。	富田家年譜	署名
1334.0613	建武元年	6月16日	後醍醐天皇が陸奥国長江庄奈良原郷、美濃国賀茂石太郷らの所領を長沼宗実に安堵する。	伊達文書	署名
1334.0828	建武元年	8月28日	後醍醐天皇が長江庄九々郷、湯原郷の所領を長沼秀行(長沼家惣領)に安堵する。	長沼文書	署名
1335	建武2年		北条時行、中先代の乱、足利義直、護良親王を暗殺する。		日本
1335.0817	建武2年	8月17日	葦名盛員父子が、片瀬で戦死。富田宗祐も29歳で戦死する。	富田家年譜	署名
1335.0826	建武2年	8月26日	片瀬で富田宗祐が忠節を尽くし戦死したので、(守護代)平行信(直盛伯父、北田城主)より田1200町の所領を加増される。	富田家年譜	行信
1335.0927	建武2年	9月27日	足利尊氏が三浦時継(三浦本宗)の跡を子の高継に相模国大介職並びに三浦三崎、三橋、上総国古谷、摂津国都賀庄、豊後国高田庄、信濃国村井郷、陸奥国糠内五戸、河沼郡議塚、上野新田の地を与える。	宇都宮文書	行信
1335	建武2年		石堂入道秀慶、東国に下る。	富田家年譜	行信
1335.1001	建武2年	10月1日	北畠顕家が、河沼郡高久村の伊賀弥太郎所領地を留守家任に与える。	留守文書	行信
1335.1223	建武2年	12月23日	陸奥国御家人会津野尻助房真勝が北畠顕家の西征軍の陣に着く。	朴沢文書	行信
1336	延元元年		足利尊氏、京に入る。楠木正成と足利尊氏と湊川合戦、正成戦死。後醍醐天皇吉野へ逃げる。南北朝時代の始まり。		日本
1336	延元元年		会津若松市、東山天寧の奥で温泉が発見される。	異本長帳	行信
1336	延元元年		会津若松市、門田の御山村に明光寺が建てられる。	異本長帳	
1336	延元元年		北畠顕家、西征の時、会津から平田弾正武範の随兵として富田祐義ら旗頭8人を含む641人余が加勢する。	富田家年譜	行信
1336.0408	延元元年	4月8日	陸奥国の国衙が大河原下総権守(南朝方)に南山長沼氏(北朝方)の河原田弥四郎所領の地を与える。	朴沢文書	行信
1336.0425	建武3年	4月25日	稲河庄内矢野目村の地を、足利尊氏の計らいで沙弥が蒲田兼光(北朝方)に預ける。	白川文書	行信
1336.0728	建武3年	7月28日	蜷河庄野沢村の半分を、足利尊氏の命を受けて、沙弥が小平光俊(北朝方)へ預ける。	石川文書	行信
1337.03	延元2年	3月	吉良貞家、北畠顕家、顕信と安積郡分地田川で戦い、片平城の伊東左兵衛に加勢する。	富田家年譜	行信
1338.02	暦応元年	2月	富田祺祐が始めて登壇し、平行信(直盛の伯父)に会う。	富田家年譜	行信
1340			この頃大戸窯が操業を停止する。	分布調査	行信
1340	暦応3年		円齊法師、高田龍興寺殊殊堂別当職となる。	富田家年譜	行信
1341.0525	興国2年	5月25日	北畠顕家(南朝方)配下の多田貞綱が会津に入り、味方を募り、田村、石川郡の奉行として入ったことを結城氏に報告する。	結城文書	行信
1342	暦応5年		会津若松市河東町藤倉の板碑が造られる。	銘文	行信
1342.09	康永元年	9月	守護役の(北田)行信が高瀬で魚採りをし、富田祺祐も行く。	富田家年譜	行信
1345	貞和元		吉良定家が会津郡藤原村を大河内雅楽助に預ける。	猿投神社文書	行信
1347	貞和3年		この年、直盛がはじめて家を相続し、補佐役の行信を迎える。(この年、行信が退き、直盛が太守に任じられる)	富田家年譜	行信
1347.08	貞和3年	8月	蜷河庄勝方村の地頭摩訶部(真壁)政幹(常陸国真壁郡が本拠)の代、薄国幹(北朝方)が藤田城、河俣城攻めに加わり、大将の石塔義房へ到着状出す。	真壁文書	行信
1348.0812	貞和4年	8月12日	奥州管領の畠山国氏と吉良貞家が耶摩郡下利根川村の地を三浦盛通の妻へ所領安堵状を出すよう幕府に進言する。	示現寺文書	行信
1348	貞和4年		主君、直盛、はじめて家をつぎ、相続し、補佐役の行信がこれを迎え、この年直盛が太守となる。	富田家年譜	直盛
1349	貞和5年		秋、小松(会津本郷町関山)で大乱。石川の兵が来て、小松で夜々戦う。	富田家年譜	署名

1350	観応元年		湊町上馬渡の板碑が造られる。	銘文	葦名
1350	観応元年		恵日寺の薬師が再興される。	旧事雑考	葦名
1351.05	観応2年	5月	蜷河庄勝方村地頭摩訶辺(真壁)政幹の代、薄国幹が守護人に属して所々で転戦する。	真壁文書	葦名
1352	観応3年		薄景教が三浦若狭守に属し、会津盆地内で転戦する。	真壁文書	葦名
1352	観応3年		吉良貞家が葦名禪師に大沼郡法用寺別当職を安堵する。	法用寺文書	葦名
1352.1024	観応3年	10月24日	吉良貞家が葦名禪師に大沼郡法用寺別当職を安堵し、8,000石を与える。	富田家年譜	葦名
1352.02	文和元年	2月	富田館を下荒井荘に造り4月に入る。	富田家年譜	葦名
1353	文和2年		佐原盛連が葦名一族とともに田村郡宇津峰城を攻める。	小荒居文書	葦名
1354	文和3年		小田山城に一廓を作り、内外を小田垣と号す。(古くは小田村、黒川村5ツあり)主君、金峯女の百日忌を以って如意宝積寺で供養。諸廓を小田山城と称し、廓の外は黒川城という。	富田家年譜	葦名
1354	文和3年		小高木館、立ち治む。	旧事雑考	葦名
1356.0814	延文3年	8月14日	太守直盛、富田祐義、本郷左下大慈堂の観音堂を再興。実相寺の末寺となる。	富田家年譜	葦名
1356.0926	延文3年	9月26日	実相寺の開山の(大光禪師)復庵が亡くなり葬儀をする。	富田家年譜	葦名
1360.04	延文5年	4月	一城山延寿院を廓の傍らに営む。奉行濱野長門守。	富田家年譜	葦名
1361	延文の頃		小松弾正包家築いて住す。	会津古壘記	葦名
1362	貞治元年		北会津下荒井に宝寿寺が建てられる。	旧事雑考	葦名
1364.0906	貞治3年	9月6日	主君盛高、実相寺の大鐘が藤原氏女浄仙、実相寺3世廣育、富田祐義らにより造られる。	富田家年譜	盛高
1365	貞治4年		小高木の千葉景兼が田地を実相寺に寄進する。	実相寺文書	葦名
1366	貞治5年		春、幼君、詮盛、11歳ではじめて將軍義詮に拝謁し、詮の字を賜る。	富田家年譜	盛高
1368	応安元年		ある記に、下荒井の塔が供養される。	旧事雑考	葦名
1369	応安2年		城南の熊野神社が再建される。	富田家年譜	葦名
1369	応安2年		下荒井で塔が供養される。奉行は細谷惣兵衛、西村二郎兵衛	富田家年譜	葦名
1370.0227	応安3年	2月27日	太守詮盛、加納庄上野村勝満寺に田畑を寄進する。	富田家年譜	詮盛
1371.0404	応安4年	4月4日	恵日寺に塔が建てられる。	旧事雑考	葦名
1374.12	応安7年	12月	会津若松市、小高木村の熊野神社鉄鉢が奉納される。	鉄鉢銘文	葦名
1375.0423	応安8年	4月23日	会津若松市大町、東明寺の鐘が作られる。	旧事雑考	葦名
1375.0714	応安8年	7月14日	黒川の諏方神社が完成する。	新編風土記	葦名
1375.0714	永和元年	7月14日	葦名詮盛、太郎丸盛次ら婦依により源翁心和が示現寺を開山する。	示現寺文書	詮盛
1377	永和3年		会津坂下町、立木観音の鰐口が作られる。	新編風土記	葦名
1378	永和4年		足利義満が、室町(花の御所)へ移る。		日本
1379	康暦元年		会津若松市飯寺。幕内館(飯寺館)、葦名若狭守直盛康暦元年2年住み、永徳2年小館に移る。	会津古壘記	直盛
1380	康暦2年		喜多方市熱塩加納町、熱塩温泉が湧出する。	異本長帳	直盛
1381.0111	康暦3年	1月11日	喜多方市、新宮熊野神社の鰐口が作られる。	鰐口銘文	直盛
1381.0217	康暦3年	2月17日	下郷町小野、小野観音の鰐口が作られる。	鰐口銘文	直盛
1381.0601	康暦3年	6月1日	会津美里町本郷火玉、稻荷神社神像が奉納される。	神像板銘文	直盛
1382	永徳2年		滝沢妙国寺蔵の日什上人筆大曼荼羅が書かれる。	銘文	
1382	永徳2年		会津美里町本郷。上荒井村柵、佐原七郎築く。外に一ヶ所、家頼の住宅有り。	会津古壘記	直盛
1383	永徳3年		葦名直盛、小田山城外に一廓を修築する。	富田家年譜	直盛
1384	永徳4年		会津若松市、八角神社の石造り層塔が造られる。	銘文	考古
1384	至徳元年		葦名直盛、城を築き、鶴城あるいは小田山城と称す。また郭上に稻荷を祭る。	富田家年譜	直盛
1384	至徳元年		黒川に住吉神社が勧請される。	新編風土記	直盛
1387	至徳4年	11月15日	会津坂下町、葦名性覚らが塔寺八幡宮へ鰐口を奉納する。	鰐口銘文	直盛
1390.0303	康応2年	3月3日	喜多方市、新宮熊野神社の鰐口が作られる。	鰐口銘文	直盛
1392	明德3年		南北朝統一される。		日本
1392	明德3年		黒川に観音寺が建てられる。	新編風土記	
1395.0818	応永2年	8月18日	耶麻郡半在家の佐原義連墓が遠忌にあたり、塔を供養する。	富田家年譜	

1397	応永4年		柳津町の円蔵寺奥院弁天堂が建てられる。	寺伝	
1398	応永5年		勝常寺が焼失する。	異本塔寺	
1399	応永6年		勝常村に勝常寺が再建され、富田祐持が奉行。	富田家年譜	
1400.0308	応永7年	3月8日	葦名満盛、伊達政宗が、鎌倉府に反抗し、篠川御所の足利満貞が結城満朝に追討を命じる。	結城文書	満盛
1402	応永9年		高田の伊佐須美神社の宮司が乱を起こす。	塔寺長帳	
1409.0603	応永16年	6月3日	北田城が落城し、北田上総、兵庫親子、舎弟七郎、三郎、伊勢仁兵衛ら戦死。	旧事雑考	葦名
1411	応永18年		興徳寺が炎上する。飛び火し38戸が焼ける。	富田家年譜	盛政
1414	応永21年		柳津で塔が供養される。	異本塔寺	
1414.11103	応永21年	11月3日	塔寺八幡遇で、遷宮が行われる。	塔寺長帳	
1415	応永22年		会津若松市高野町平塚の薬師堂が再興される。	異本長帳	
1415	応永22年		平塚の薬師寺の薬師堂が建てられる。	旧事雑考	
1415.0824	応永22年	8月24日	湯川村樽川の禪定寺に鐘が納められる。	異本長帳	
1415.0824	応永22年	8月24日	湯川村樽川禪定寺の鐘が成る。今は天寧寺にあり。	旧事雑考	
1415.1121	応永22年	11月21日	葦名氏が新宮氏を攻める。	塔寺長帳	
1415.12	応永22年	12月	新宮で戦いがある。	旧事雑考	
1416	応永23年		興徳寺の梵鐘が鑄造される。天下十刹に列せられる。	新編風土記	
1416.0615	応永23年	6月15日	興徳寺の梵鐘が鑄造される。	旧事雑考	
1416.09	応永23年	9月	ある記に佐々川戦いがある。	旧事雑考	
1416.10	応永23年	10月	ある記に稲村で戦いがある。	旧事雑考	
1417.0325	応永24年	3月25日	恵日寺が炎上する。	富田家年譜	
1418.0124	応永25年	1月24日	新宮、塩川、遠田、塩坪で戦いがある。	異本長帳	
1418.01	応永25年	1月	新宮ならびに塩川、塩坪、遠田戦いがある。	旧事雑考	
1419.07	応永26年	7月	白鬚の大洪水がある。	異本長帳	
1419.07	応永26年	7月	黒河川、今羽黒下より押切り鶴沼までいく。	旧事雑考	
1419.0629	応永26年	6月29日	新宮の兵が越後国小河城を落とす。	塔寺長帳	
1419.0728	応永26年	7月28日	葦名の兵が耶麻郡小布瀬城を落とす。	塔寺長帳	
1420.0702	応永27年	7月2日	新宮城が落城する。この年、猪苗代で戦いがある。	塔寺長帳	
1420.0518	応永27年	5月18日	飢饉早魃になる。	旧事雑考	
1421	応永28年		東山に葦名盛信の招きで、傑堂能勝が天寧寺を開く。	新編風土記	盛信
1423	応永30年		僧長巖が自在院を建てる。	新編風土記	
1423.0626	応永30年	6月26日	葦名盛政が諏方神社の祝に会津郡の巫女統括を命じる。	新編風土記	盛政
1424.0102	応永31年	1月2日	大水になる。	旧事雑考	
1425	応永32年		僧秀哉が弥勒寺を建てる。	新編風土記	
1426.0806	応永33年	8月6日	大水になる。	旧事雑考	
1429	永享元年		猪苗代町。金曲村館、岡部山城築き住す。若年、弥五郎貞盛という。後に、三浦兵庫介行盛居る。天正の頃、猪苗代盛国の子盛胤住す。	会津古壘記	
1429	永享元年		松本伊豆実輔、図書、松沢に松沢寺を建てる。	旧事雑考	
1430.06	永享元年	6月	6月から9月洪水となる。	旧事雑考	
1433.10	永享5年	10月	9代会津二郎左衛門尉満盛、新潟県の小川に来て黒川に向わんとするが、小田山城よりし出陣され、小川で昼夜の合戦となる。	葦名考証	
1433	永享5年		越後国に逃れた新宮氏が小河庄で滅亡する。	塔寺長帳	
1434	永享6年		葦名盛久が会津郡守護職などの所領を譲る。	首藤石川文	盛久
1434	永享6年		法用寺に塔が建てられる。	旧事雑考	
1438	永享10年		將軍義久が葦名盛久らに上杉憲実援助を命じる。	將軍家内書	盛久
1439	永享11年		葦名盛政が黒川の諏方神社に大般若經寄進する。	新編風土記	盛政
1441	永享年中		会津若松市。船子村柵、永享年中星備中刑部築く。天正年中星備中居る。	会津古壘記	
1444	文安元年		葦名盛久が死去。弟盛信が跡を継ぐ。	葦名系譜	盛信
1448	文安5年		13代葦名盛高黒川城で誕生する。	葦名考証	
1450	宝徳2年		関東の騒乱始まる。長尾景仲・上杉房頭、鎌倉公方の足利成氏を攻める。		日本
1451.0318	宝徳3年	3月18日	葦名盛信が死去。盛詮が跡を継ぐ。	葦名系譜	盛詮

1451.0715	宝徳3年	7月15日	松本右馬允が多々良伊賀を襲う。伊賀は、葦名盛詮を奉じて逃れるが敗れて自殺する。	塔寺長帳	盛詮
1451.0715	宝徳3年	7月15日	12代盛詮、黒川城中放火で乱れる。松本右馬、小田垣において交戦をなす、7月21日に終り、北館にて亡放する。	葦名考証	盛詮
1451.0807	宝徳3年	8月7日	猪苗代盛光が浜崎城を攻め落とす。	塔寺長帳	盛詮
1453	享徳2年		会津若松市。石原村柵、石原刑部信清築いて住す。	会津古壘記	盛詮
1453.0316	享徳2年	3月16日	松本筑前守が松本右馬允と芳賀将監を攻める。右馬允は日光に逃れ、将監は殺される。	塔寺長帳	盛詮
1453.0323	享徳2年	3月23日	享徳合戦。葦名盛詮が白川直朝に礼状を送る。	遠藤白川文	盛詮
1453.0917	享徳2年	9月17日	右馬允が日光を出て浜崎の館に入り、猪苗代盛光がこれを援ける。	塔寺長帳	盛詮
1454.1123	享徳3年	11月23日	夜大地震。	旧事雑考	盛詮
1456	康正2年		会津若松市。田村山柵、田村山刑部左衛門頼久住す。	会津古壘記	盛詮
1457.0228	長禄元年	2月28日	日が2つ並んで出る。	旧事雑考	盛詮
1458.0620	長禄2年	6月20日	日が2つ並んで出る。	旧事雑考	盛詮
1458.0824	長禄2年	8月24日	葦名氏が7,000騎で伊達氏を攻めたが、金上氏利無くして帰る。	旧事雑考	盛詮
1458	長禄2年		山内越中が白川の兵とともに500騎で田島の嶋山城を攻める。白川の兵37を獲る。	旧事雑考	盛詮
1458.1210	長禄2年	12月10日	山内越中が中野館に侵入、葦名盛詮が実成寺法華堂から出陣し攻める。11日、山内越中父子は自害。	旧事雑考	盛詮
1460	長禄4年		足利義政が葦名盛詮・白川直朝らに古河公方成氏討伐を命じる。	御内書案	盛詮
1460.0701	長禄4年	7月1日	申の刻(午後4時)から暗闇に入り、その年、五穀が実らず。	塔寺長帳	盛詮
1460.0811	長禄4年	8月11日	延寿寺の記録に小高木延寿寺とある。	旧事雑考	盛詮
1460.1020	長禄4年	10月20日	小高木館が残らず焼ける。	塔寺長帳	盛詮
1460	長禄年中		新鶴村。入田沢村柵、武田帯刀俊勝長禄年中築いて住す。その後継、武田大和黒川に居宅あり。後に大和町と号す。	会津古壘記	
1461	寛正2年		平田石見り本願により、塔寺の観音堂が修復される。	旧事雑考	盛詮
1461	寛正2年		飢饉疫病発生する。	旧事雑考	盛詮
1462.0408	寛正3年	4月8日	日が3つ並んで出る。	旧事雑考	盛詮
1462	寛正3年		八角の観音堂が供養される。	旧事雑考	盛詮
1463.0101	寛正4年	1月1日	日が3つ並んで出る。	旧事雑考	盛詮
1463.0106	寛正4年	1月6日	日が並んで出る。	旧事雑考	盛詮
1463.0903	寛正4年	9月3日	所沢の月光寺薬師堂を葦名盛詮が建てる。	旧事雑考	盛詮
1464	寛正5年		猪苗代盛光が黒川を攻める。	異本長帳	盛詮
1464	寛正5年		猪苗代氏が黒川を攻める。	旧事雑考	盛詮
1466	寛正頃		会津若松市。大島村館、大島若狭守頼盛築き住す。	会津古壘記	盛詮
1466.0314	文正元年	3月14日	葦名盛詮が死去。子の盛高が跡を継ぐ。	葦名系譜	盛高
1466.0314	文正元年	3月14日	葦名盛詮が死去し盛高が立つ。	旧事雑考	盛高
1466.0603	文正元年	6月3日	足利義政が葦名盛詮ら関東、奥羽の諸氏に対し、足利成氏征伐を促す。	御内書	盛高
1467	応仁元年		応仁の乱が始まる。		日本
1470	文明2年		葦名盛高が安子島にて戦う。	塔寺長帳	盛高
1471	文明2年		大雨雪。安子ヶ島で戦いがある。	旧事雑考	盛高
1471	文明2年		泉村に大泉寺が建てられる。	旧事雑考	盛高
1471.1203	文明3年	12月3日	將軍足利義政が、葦名盛高らに足利成氏征伐を命ずる。	後鑑	盛高
1471	文明4年		大旱魃	旧事雑考	盛高
1471	文明4年		大飢饉	旧事雑考	盛高
1472.0219	文明4年	2月19日	黒川で大火。3分の一が焼失する。	旧事雑考	盛高
1473	文明5年		山内信濃俊詮が伊北郷野尻村に中丸城を築く。村西三里、高さ140余間、東西56間、南北84間。	旧事雑考	盛高
1474	文明6年		盛高が黒川に高岩寺を建てる。	富田家年譜	盛高
1474	文明6年		岌天が福田の無量寺に居たとき、黒川に呼ばれ城西に高岩(巖)寺を建てる。	旧事雑考	盛高
1474.0621	文明6年	6月21日	雀林法用寺の鐘が納められる。	銘文	盛高
1474.0622	文明6年	6月22日	大洪水	旧事雑考	盛高
1474.0915	文明6年	9月15日	大雨風	旧事雑考	盛高

1478.0413	文明7年	4月13日	塔寺の斗帳が完成する。	旧事雑考	盛高
1478.0416	文明7年	4月16日	大地震	旧事雑考	盛高
1478.0606	文明7年	6月6日	大風	旧事雑考	盛高
1478.0715	文明7年	7月15日	大風雨	旧事雑考	盛高
1478.0722	文明7年	7月22日	大風	旧事雑考	盛高
1478.1006	文明7年	10月6日	大地震	旧事雑考	盛高
1478	文明10年		桧原の山賊270余人を葦名盛高の命により、穴沢越中俊家が退治し、桧原に館を構える。他に境野、寺入、道地窪が与えられる。	新編風土記	盛高
1478.0716	文明10年	7月16日	葦名盛政が將軍足利義尚に太刀、馬を献上する。	親元日記	盛高
1479	文明11年		黒川の興徳寺と実相寺が焼ける。	塔寺長帳	盛高
1479.0527	文明11年	5月27日	葦名盛高が高田城の洪川義基を攻め落とす。	塔寺長帳	盛高
1479.0527	文明12年	5月27日	葦名盛高が高田城を攻め、洪川氏が宮川で魚獲りをしていたときに塩田氏を使い陥れる小俣氏が居た壘が村西にある。	旧事雑考	盛高
1482	文明14年		葦名盛高が伊達氏の女を娶る。	旧事雑考	盛高
1482	文明14年		猪苗代城の修復が完成する。	異本長帳	盛高
1483.1010	文明15年	10月10日	葦名氏が八角の地若干を妙法寺に寄付する。	旧事雑考	盛高
1490.0202	延徳2年	2月2日	猪苗代が乱。多々良伊賀、3日に討ち死する。	富田家年譜	盛高
1491	延徳3年		八角神社が勧進で造営される。	新編風土記	盛高
1492	延徳頃		会津若松市。中ノ明館、大島小太郎守信築く。	会津古壘記	盛高
1492.0418	明応元年	4月8日	8日に始まり11日まで黒川で乱れる。主君盛高、伊東の館に入り、松本藤衛門輔忠、12日には富田淡路頼祐の館、頼実、二郎祐道父子3人戦士。	富田家年譜	盛高
1492	明応元年		会津若松市。黒川城外、石塚中野館、石塚の南にあり、葦名氏家臣松本対馬築いて住す。	会津古壘記	盛高
1492	明応元年		葦名盛高が猪苗代氏、松本氏、富田氏を攻める。	塔寺長帳	盛高
1495	明応4年		北条早雲が小田原城を攻める。		日本
1495	明応4年		松本氏、伊藤氏が葦名盛高に背いて下野宇都宮へ逃れる。	塔寺長帳	盛高
1499.0115	明応8年	1月15日	盛高、松本勘由宗輔の綱取城を攻め2月5日に落とす。	新宮雑葉記	盛高
1502	文亀2年		葦名盛高が、常世氏、勝氏、三橋氏、小荒居氏を攻める。	塔寺長帳	盛高
1504	永正元年		葦名盛高家督の座に着き、黒川の城郭を整える。	葦名家由緒	盛高
1505	永正2年		葦名盛高が佐瀬・富田と組し、盛滋は松本源藏・勘解由とともに綱取城に籠もり争う。	旧事雑考	盛高
1506	永正3年		葦名盛高が片門の渡守を安堵する。	新編風土記	盛高
1507	永正4年		猪苗代兼載が「八代集秀逸」を書く。	奥書	盛高
1511	永正8年		恵日寺絵図が高野山で修復される。	絵図裏書	盛高
1512	永正9年		只見町梁取の観音堂が再建される。	国重文	
1514	永正11年		実相寺が関東十刹に列せられる。	新編風土記	盛高
1515	永正12年		自在院の大般若經奥書に人民飢饉と書かれる。	經裏書	盛高
1515.1208	永正12年	12月8日	葦名盛高、70歳で亡くなる。実相寺に葬られる。子盛滋、父盛高の為に高岩寺を建てる。	旧事雑考	盛滋
1517	永正14年		葦名盛高が死去。盛滋が跡を継ぐ。	塔寺長帳	盛滋
1518	永正15年		葦名盛滋が境沢常陸介になら川庄、門田庄内の村諸公事を免除する。	境沢文書	盛滋
1520.0621	永正17年	6月21日	最上義光と伊達植宗が戦い、盛滋が植宗に兵を派遣する。	伊達家文書	盛滋
1521	大永元年		葦名盛滋が死去する。弟盛瞬が跡を継ぐ。	葦名系譜	盛瞬
1521	大永元年		会津黒川住人が石見国南八幡宮の鉄塔へ納経する。	経筒銘文	盛瞬
1522	大永2年		塩川町。堂畑村柵、秋元重実築いて住す。	会津古壘記	盛瞬
1521.0207	永正18年	2月7日	葦名盛滋が亡くなる。子無く弟の盛瞬が跡を継ぐ。	旧事雑考	盛瞬
1522	大永2年	3月28日	盛瞬が、高巖寺に父盛高の像を送り、門前の屋敷や田を守護不入の地とする。	異本長帳	盛瞬
1525.0523	大永5年	5月23日	勝常寺薬師に寺領20貫を盛瞬が寄進する。	新編風土記	盛瞬
1528	大永頃		新鶴村。逆瀬川村柵、平山十郎築いて住す。	会津古壘記	盛瞬
1528	享祿元年		葦名盛瞬が境沢左馬助になら河庄、門田庄内の村諸公事を免除する。	境沢文書	盛瞬
1528	享祿元年		自在院大般若經の經櫃が完成する。	經櫃銘文	盛瞬
1529.0505	享祿2年	5月5日	冬木沢の八葉寺と空也堂が焼ける。	富田家年譜	

1529.0606	享禄2年	6月6日	喜多方市上勝の観音堂が焼ける。	富田家年譜	
1531.0801	享禄4年	8月1日	柳津の菊光堂が供養される。	富田家年譜	
1532	天文元年		新鶴村。境野館、小野大膳国房築く。永禄の頃、河原田豊前住す。天正の頃、佐瀬平七住す。	会津古壘記	
1532	天文元年		この年、盛瞬が黒川の実相寺と、岩沢の地を金剛寺へ寄進する。	異本長帳	盛瞬
1534	天文3年		葦名盛瞬が、伊達種宗を援けて白河に出兵する。	塔寺長帳	盛瞬
1534	天文3年		藤倉の延命寺が再興される。	異本長帳	盛瞬
1535	天文4年		葦名盛瞬が本庄氏援けて越後に出兵する。	塔寺長帳	盛瞬
1536	天文5年		黒川大火。鶴沼川が大洪水となる。	旧事雑考	盛瞬
1536.0426	天文5年	4月26日	諏方神社火災にあう。	新編風土記	盛瞬
1537	天文6年		葦名盛氏、伊達氏の娘を娶る。	塔寺長帳	盛瞬
1537.0122	天文6年	1月22日	熱塩の示現寺が焼ける。	異本塔寺	盛瞬
1538	天文7年		火災にかかりて、新たに造りなおさなければならないほど、堀や土塁の形も変わった。	新編風土記	盛瞬
1538	天文7年		葦名盛瞬が遠江守に任じられる。	後鑑	盛瞬
1538.0315	天文7年	3月15日	黒川で大火。御館、針生殿、図書殿、伊豆殿、常代殿、西海枝殿、鶴浦殿、慶徳殿、船窪殿、富田殿、下総守殿、熊野宮当麻、諏方須生殿、栗村殿、その外ことごとく焼けた。御屋形様は平田石見守殿に居る。	塔寺長帳	盛瞬
1538.0315	天文7年	3月15日	黒川城及び諏方社材木とも焼ける。盛瞬は平田石見宅ら、盛氏は佐瀬大和宅に移る。	会津鑑	盛瞬
1538.0415	天文7年	4月15日	城の裏屋が完成する。	会津鑑	盛瞬
1539	天文8年		小田山城新しく造営されて、領内の諸材木不足する。	富田家年譜	盛瞬
1540.0227	天文9年	2月27日	盛瞬、盛氏や西海枝、塩田、平田、佐瀬、荻野、栗村、松本、富田氏らによって諏方神社が再興する。	新編風土記	盛瞬
1540.0420	天文9年	4月24日	將軍足利義晴へ盛瞬が献上した大鷹の礼に、内書が与えられる。	後鑑	盛瞬
1541.0422	天文10年	4月22日	黒川城15間棟上げ。	旧事雑考	盛瞬
1541.1220	天文10年	12月20日	猪苗代盛頼、葦名盛瞬に反抗する。黒川から富田氏らが攻め、翌年正月5日に降参する。	旧事雑考	盛瞬
1542.0105	天文11年	1月5日	猪苗代盛頼、先月20日、葦名に反抗するが、この日降参する。	異本長帳	盛瞬
1543	天文12年		種子島にポルトガル人が鉄砲を伝える。		日本
1543	天文12年		会津郡中地村天満宮で法楽連歌が催される。	新編風土記	盛瞬
1543.0721	天文12年	7月21日	葦名盛瞬、盛氏父子が横田を攻める。そして、伊南の河原田氏が宮沢に出城を構え抵抗したのでこれを攻める。	旧事雑考	盛瞬
1544	天文13年		小田山の城、ことごとく改め築かれる。	会津鑑	盛氏
1544	天文13年		葦名盛氏が、境沢左馬助になら川庄、門田庄内の村諸公事を免除する。	境沢文書	盛氏
1544.1230	天文13年	12月30日	大沼郡高田村の地を平田宗範が、年貢4貫五百の地を渋河源左衛門尉へ売り渡す。盛氏が加判する。	新編風土記	盛氏
1546	天文15年		雪村が葦名盛氏に「画軸巻舒法」を授ける。	丹青若木集	盛氏
1547	天文16年		葦名盛氏が伊達氏を援けて出羽国長井に出兵する。	塔寺長帳	盛氏
1549	天文18年		フランススコザビエルが、鹿児島にキリスト教を伝える。		日本
1550	天文19年		諏方神社境内の禁制が定められる。	新編風土記	盛氏
1550	天文19年		醍醐寺無量寿院僧正堯雅が金剛寺で印可を授与する。	醍醐三寶院	盛氏
1551	天文20年		下郷町万願寺の釣燈籠が造られる。	釣燈籠銘文	盛氏
1553.0821	天文22年	8月21日	葦名盛舜が64歳で亡くなる。	異本長帳	盛氏
1556.0125	弘治2年	1月25日	黒川で大火。大町、馬場で蔵百カ所以上焼ける。	塔寺長帳	盛氏
1558	弘治4年		高野町の七ツ壇経塚の経筒が造られる。	銘文	盛氏
1558.0416	永禄元年	4月16日	横田の中丸城主山内俊清の二男、山内俊政と弟の俊範が松本図書助領地の滝谷、城代井上河内が守る岩谷城を攻め落とす。盛氏、立腹し、これを攻める。沼沢出雲の計らいで事が収まり、山内氏が盛氏配下となる。	異本長帳	盛氏
1560	永禄3年		織田信長、桶狭間で今川義元を破る。織豊政権の始まり。		日本
1561	永禄4年		春、葦名盛氏が岩崎の向羽黒に城の普請を始める。	旧事雑考	盛氏
1561	永禄4年		盛氏が田島の長沼実国を攻め、配下となる。富田監物、同主膳が謀叛を起こし、と捕らえられ殺される。	異本長帳	盛氏
1561.1015	永禄4年	10月15日	会津郡中に徳政を実施する。旧事雑考では12月5日とある。	異本長帳	盛氏

1562.09	永禄5年	9月	禁酒令を出す。	旧事雑考	盛氏
1564.0412	永禄7年	4月12日	伊達輝宗、石川但馬を派遣し、会津を攻める。松原峠で穴沢俊恒、俊光親子が空掘、逆茂木で防戦し、480余人を討ち取る。	檜原戦物語	盛氏
1564.0415	永禄7年	4月15日	盛氏、北条氏康・武田信玄に応じて越後國中蒲原の菅名庄へ小田切弾正田忠、金上氏、松本氏の派遣に感謝し鶴浦左衛門入道へ手紙を送る。	四家合考	盛氏
1564.05	永禄7年		穴沢俊恒、松原に戸山城を築く。	檜原戦物語	盛氏
1564.0815	永禄7年	8月15日	禁酒を放免する。	旧事雑考	盛氏
1565.0717	永禄8年	7月17日	伊達の兵八百余人が松原の戸山城を攻めるが、穴沢氏防戦し、敵73人を討ち取る。	檜原戦物語	盛氏
1565.0718	永禄8年	7月18日	前日の伊達勢の松原侵攻により、戸山城を廃止し、岩山城に移すことを決める。	檜原戦物語	盛氏
1566.0124	永禄9年	1月24日	伊達勢千人余が松原を攻めるが、雪が深く、穴沢俊恒、佐瀬玄番らが防戦し、一ノ渡で五百余人を討ち取る。	旧事雑考	盛氏
1568.0412	永禄11年	4月12日	勝常寺の覚成が巖館銘を著し、向羽黒山城が完成し、実城、中城、外構を持ち、二千余の建物を持つ、堅固な城という。	旧事雑考	盛氏
1569	永禄12年		松原の穴沢俊恒、岩山に館を移し隠居の所とする。土居、空掘崩れて定かならず。	新編風土記	盛興
1570	元亀元年		盛氏、岩崎と小田山城の間に商家を作り、宗頭町と名付ける。	異本長帳	盛興
1571	元亀2年		葦名盛氏が北条氏政と結び、寺山などで佐竹氏と戦う。	塔寺長帳	盛興
1571.0513	元亀3年	5月13日	松本凶書、安積で戦死する。	旧事雑考	盛興
1573	天正元年		室町幕府の滅亡。安土桃山時代の始まり。		日本
1574	天正2年		鶴ノ浦氏、金子氏らが討ち死にする。	塔寺長帳	盛興
1575.0605	元正3年	6月5日	葦名盛興が亡くなる。盛氏、岩崎より小田山の城に帰る。	旧事雑考	盛興
1575.0810	天正3年	8月10日	盛氏、岩崎より黒川へ帰還する。	旧事雑考	盛氏
1576	天正4年		織田信長。安土城を築く。大砲伝来。		日本
1580.0617	天正8年	6月17日	60歳で葦名盛氏死去する。小田村に葬る	旧事雑考	盛氏
1580.0806	天正8年	8月6日	荒井万五郎が安土城に到着し、駿馬と蠟燭千挺を織田信長に送る。	旧事雑考	盛隆
1591.0806	天正9年	8月6日	荒井万五郎が安土城に到着し、駿馬と蠟燭千挺を織田信長に送る。	蘆名家考証	盛隆
1582.03	天正10年		3月、天目山の戦い。武田勝頼滅亡。6月、本能寺の変、織田信長死去。		日本
1583.0225	天正11年	2月25日	富田美作の米代屋敷において、小笠原長時が家臣の西坂勝三郎が長時夫妻と息女を惨殺。	蘆名家考証	盛隆
1583	天正11年		豊臣秀吉、大坂城を築く。		日本
1584	天正12年		大塩に柏木城が築かれる。伊達氏に備え三瓶大蔵と付近の武士150騎を置く。城跡は、東西約1 ² / ₃ にも及び、石積石垣が随所に残る。	会津鑑	盛隆
1584.0613	天正12年	6月13日	松本太郎16歳、栗村下総が謀叛をし、黒川城を乗っ取るが失敗する。	旧事雑考	盛隆
1584.10	天正12年	10月	伊達輝宗隠居し、家督を政宗に譲る。	治家記録	盛隆
1584.1006	天正12年	10月6日	葦名盛隆24歳で家臣の大場三郎左衛門によって、御殿縁側で惨殺される。	旧事雑考	盛隆
1584.1126	天正12年	11月26日	伊達政宗が、松原に進軍し、風呂屋に居た俊恒を攻め、岩山城で一族が討ち死にする。残ったものは、大塩へ逃れる。	檜原戦物語	亀若
1585	天正13年		猪苗代盛国隠居し、猪苗代城の北にある鶴峯城を改修し移り住む。	四家合考	亀若
1585.04	天正13年		この頃、大塩の萱峠に長さ163m、高さ7mの鹿垣が造られ、5月の政宗侵攻までには完成していた。	檜原戦物語	亀若
1585.0510	天正13年	5月10日	夜、松本備中の内応により、伊達原田、新田ら3千余騎が田付に攻入り、50余村に火を付け放す。黒川の諸兵を集め塩川に陣を置く。	旧事雑考	亀若
1585.0511	天正13年	5月11日	原田氏らが松本一族の関柴備中の手引きにより、関柴に攻入り、惣社原に陣を置く。葦名氏は3方から攻め、敵は北に帰る。	旧事雑考	亀若
1585.0512	天正13年	5月12日	政宗、松原より大塩に向けて萱峠の鹿垣辺まで進攻するも、五月雨と霧で進めず引き返す。政宗は以後54日間、檜原に留まる。松原城を築き、後藤孫兵衛を城番に置く。後藤孫兵衛は摺上原まで松原に居る。山麓には外構の土塁と水堀を造る。現在約290m残り、松原湖中へも続き、山腹には二重の堀跡が残る。	旧事雑考	亀若
1586.0120	天正14年	1月20日	黒川の諏方神社で社領の収納日記を書く。	新編風土記	亀若
1586.1122	天正14年	11月22日	葦名亀若(王)丸3歳が痘瘡で亡くなる。	旧事雑考	亀若

1587.0303	天正15年	3月3日	佐竹義重の次男、義広が黒川城に入る。	旧事雑考	義広	
1588.0115	天正16年	1月15日	黒川の諏方神社と宥海とが正月参籠者の取決めをする。	新編風土記	義広	
1588.0309	天正16年	3月9日	猪苗代盛種（胤）が小池近右衛門に領地を与える。	小池文書	義広	
1588.0418	天正16年	4月18日	大内定綱の政宗への寝返りにより、葦名義広が安積に兵を出しが、伊達成実には敗れる。	伊達文書	義広	
1588.0508	天正16年	5月8日	義広、郡山で政宗と対峙し、福原で政宗と戦い、佐瀬氏家臣が多く亡くなる。	旧事雑考	義広	
1588.0510	天正16年	5月10日	猪苗代盛国が、子の盛胤と対立し、盛胤が黒川に行っている際に猪苗代城を奪い取る。盛胤は安積郡の横沢へ移る。	旧事雑考	義広	
1588.0511	天正16年	閏5月	閏5月11日、義広も佐竹義重と謀り、政宗と戦うべく、郡山に出兵し、対峙する。	山内文書	義広	
1588.0704	天正16年	7月4日	義広、佐竹義重と政宗が、郡山で戦う。葦名方50人余討ち取られる。	伊達文書	義広	
1588.1016	天正16年	10月14日	葦名義広が、豊臣秀吉へ金上盛備を使者に送る。	旧事雑考	義広	
1589.0324	天正17年	3月24日	石田三成が、富田美作守に、義広の上洛を促す書を送る。	新編風土記	義広	
1589.0326	天正17年	3月26日	政宗が、片平親綱に書を送り、猪苗代盛国が政宗に属しようとしていることを報じる。また、親綱を義広が襲う時には、援軍を約束する。	伊達文書	義広	
1589.0504	天正17年	5月4日	伊達成実、安子ヶ島城を攻め落とす。夜中に成実家臣の遠藤駿河を猪苗代に派遣する。	旧事雑考	義広	
1589.0504	天正17年	5月4日	安子ヶ島城を攻める。城の回りを巡見し、外城を攻落し、町構え三ノ曲輪まで即時に崩す。阿子ヶ島治部伊達成実に城を明け渡す。この夜、東の原に野陣する。	治家記録	義広	秀吉
1589.0505	天正17年	5月5日	政宗、高玉城を攻め落す。実城に立て籠もる婦女子、馬を含め、300余人が撫で斬りされる。	伊達文書	義広	秀吉
1589.0523	天正17年	5月23日	大内定綱、政宗に書を送り、会津に攻め込むよう進言する。	伊達事蹟考	義広	秀吉
1589.0519	天正17年	5月19日	政宗、相馬駒峯城を攻落す。	治家記録	義広	秀吉
1589.0520	天正17年	5月20日	政宗、相馬葦山要害を攻落す。	治家記録	義広	秀吉
1589.0527	天正17年	5月27日	福島の大森に居た政宗が、葦名攻めの出馬を6月16日に決定する。	伊達文書	義広	秀吉
1589.0527	天正17年	5月27日	義広、佐竹義重、岩城常隆らの連合軍が政宗との合戦に備え、須賀川に出陣する。また、三百余騎を猪苗代の壺下口に派遣する。	旧事雑考	義広	秀吉
1589.0601	天正17年	6月1日	猪苗代盛国が謀反し、伊達政宗方に属す。片倉小十郎らが土湯口、原田らが桧原口から攻め入るよう命じる。	天正日記	義広	秀吉
1589.0602	天正17年	6月2日	政宗、大森から本宮に移る。安子ヶ島から中山まで馬で出かける。	天正日記	義広	秀吉
1589.0603	天正17年	6月3日	政宗、本宮から中山近辺まで出かけ、猪苗代へ布施備後を派遣し、馬と着物を送る。	天正日記	義広	秀吉
1589.0604	天正17年	6月4日	政宗、七時（午後4時頃）猪苗代へ向けて安子ヶ島を出発する。	天正日記	義広	秀吉
1589.0604	天正17年	6月4日	雨、政宗、猪苗代へ向けて出発。2・300人で摺上原近所の空家を焼き払う。猪苗代氏は、日橋川の橋を壊す。義広、須賀川より黒川へ戻る。	治家記録	義広	秀吉
1589.0605	天正17年	6月5日	摺上原の戦い。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0605	天正17年	6月5日	好天、政宗午前10時頃、作戦会議をする。猪苗代城の書院の西塀際で見ると会津勢が多数見えた。政宗櫓に登って摺上方面を見る。先陣は猪苗代氏、二番手は片倉小十郎とする。会津勢は、日橋川北の山に段々に備え近所の在家を10軒ばかりを焼き払う。摺上原の戦い。義広が崩れて日橋川に差し掛かるも、兼ねてり橋を落としていたことから、大河に崩れ溺死する者おびたしい。義広黒川へ帰る。伊達勢は、黒川近辺まで田舎道30里（1里は約654m）ほどを追撃する。この戦いで、会津勢は2500人（成実の記録には1580とあり）が亡くなる。	治家記録	政宗	秀吉
1589.0605	天正17年	6月5日	河原田盛次は、桧原口の大塩へ向ったが、摺上原の敗戦を聞いて引き返す。	四家合考	政宗	秀吉
1589.0606	天正17年	6月6日	政宗、金川・三橋館へ動く。大塩方明方に引き上げる。大寺付近に野陣する。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0606	天正17年	6月6日	政宗、金川・三橋館へ動く。大塩方明方に引き上げる。大寺付近に野陣する。大塩の城も朝に残らず城を開けて黒川へ引く。原田氏が大塩城へ動く。三橋、塩川らは黒川へ引き上げる。	治家記録	政宗	秀吉
1589.0607	天正17年	6月7日	政宗、三橋館へ移る。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0609	天正17年	6月9日	三橋館に櫓が造られる（二階建てという）	天正日記	政宗	秀吉
1589.0610	天正17年	6月10日	この夜、葦名義広、居城の黒川を棄て白川へ出奔する。	治家記録	政宗	秀吉
1589.0611	天正17年	6月11日	政宗、昼に黒川へ入る。（興徳寺へ入る）	天正日記	政宗	秀吉
1589.0613	天正17年	6月13日	政宗、晩に御西へ出かける。西館は、母の居る所なり。黒川城内にあり。	治家記録	政宗	秀吉
1589.0613	天正17年	6月13日	政宗、晩方に御西へ出かける。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0614	天正17年	6月14日	輪王寺が参る。	天正日記	政宗	秀吉

1589.0617	天正17年	6月17日	御西へ出かける。帰りに要害近辺を見る。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0618	天正17年	6月18日	お鷹屋（御殿）の造作と補修をする。お屋敷配りをし、札を付けさせられる。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0621	天正17年	6月21日	晩方に要害近辺を見る。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0624	天正17年	6月24日	晩方小田垣近辺を見る。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0628	天正17年	6月28日	お鷹屋を掃除させられる。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0630	天正17年	6月30日	荒井三郎に本領安堵の御朱印をする。	治家記録	政宗	秀吉
1589.0703	天正17年	7月3日	朝に要害近辺の普請をさせられる。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0705	天正17年	7月5日	暮に及び、堂曲輪へ出かける。	治家記録	政宗	秀吉
1589.0714	天正17年	7月14日	要害近辺を朝に政宗が見回りする。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0805	天正17年	8月5日	暮れ方に稲荷曲輪に出かける。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0811	天正17年	8月11日	慶山寺が参る。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0817	天正17年	8月17日	晩方にお東様（母）の造作を見に行く。そこから如宝寺曲輪へ連れ回され、帰ってきた。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0826	天正17年	8月26日	朝に向羽黒へやなを見に行く。	天正日記	政宗	秀吉
1589.0926	天正17年	9月26日	晩方、如宝寺曲輪の色々な屋敷を見て、そこから馬場へ行く。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0203	天正18年	2月3日	白鳥大雁を撃つ。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0209	天正18年	2月9日	生きた白鳥が届く。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0220	天正18年	2月20日	御門の構えをなおす。	治家記録	政宗	秀吉
1590.0230	天正18年	2月30日	朝、要害近辺を巡見する。普請作事を申付け、帰りに渡邊助左衛門の馬を見る。	治家記録	政宗	秀吉
1590.0317	天正18年	3月17日	政宗、普請所を見まわる。そして馬を見る。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0319	天正18年	3月19日	朝に石垣普請をする。黒川中、近しい者、家中、町の者が出て、背負った。四つ時まで仕上がる。それを政宗が見る。その後、鷹野へ出かけ、高田にて巫女舞いを見る。鉄砲にて雁を撃たせられる。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0322	天正18年	3月22日	朝に石垣普請をする。普請所へ出かける。その後、馬場、大町衆と庭で会う。晩方に六日町へ出かける	天正日記	政宗	秀吉
1590.0328	天正18年	3月28日	お鷹野の向羽黒へ出かけた。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0405	天正18年	4月5日	政宗、お東（母）の所へ出かける。虫の息にて帰る。即平常に戻る	天正日記	政宗	秀吉
1590.0405	天正18年	4月5日	御西館（西出丸にあった西御殿）へ供応ため出かける。虫の息にて帰る。即平腹に戻る。御西館においてお膳を食している時、供の者、目くらみ、血を吐いて気絶する。毒殺の陰謀を知り、政宗虫の息と称して帰った。	治家記録	政宗	秀吉
1590.0407	天正18年	4月7日	政宗の弟小次郎を殺す。一昨日西館において毒殺を図ったのは、母の命によると白状する。弟小次郎をに家督とするはかりごとということから、手討ちにした。この夜、母は山形へ移った。	治家記録	政宗	秀吉
1590.0412	天正18年	4月12日	政宗、大地（大内）まで出かけるが戻り。お鷹屋で絵図を見る。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0415	天正18年	4月15日	政宗、大内まで馬でいく。相談をする。	天正日記	政宗	秀吉
1590.0426	天正18年	4月26日	政宗が白金木左衛門に会津領内の蠟役を与える。	伊達文書	政宗	秀吉
1590.0509	天正18年	5月9日	津川境、横田城へは菅野備中を城代として派遣する。	治家記録	政宗	秀吉
1590.0609	天正18年	6月9日	政宗が、小田原の秀吉の陣所において謁見する。会津領は取上げる。	伊達文書	政宗	秀吉
1590.0703	天正18年	7月3日	豊臣秀吉から、小田原から会津までの幅三間の道への改修と御座所の普請、食糧の調達などを命じられ、5人の奉行が派遣される。	伊達文書	政宗	秀吉
1590.0713	天正18年	7月13日	政宗、長井へ還る。木村伊勢守、黒川警護のため会津に入る。	旧事雑考		秀吉